



①外からの光をたっぷり取り込んだ明るい待合室 ②広く高級感のあるトイレはバリアフリー対応 ③丁寧な診療を行い、患者へのホスピタリティを忘れない



②



③



④骨密度の精密な測定ができる機器をそろえる

運動療法や薬物治療を中心としたリハビリテーションまで対応 病院との連携体制も整える

「説明に時間がかかることもあります。ですが、患者さんにしっかりと納得していただき、満足できる治療を提供することが私たちのモットーです。皆さん、痛みや不安を抱えて来られますが、最後は笑顔で帰ってもらいたいですからね」

していると話す。

組み合わせながら根気強く続けていくことが中心となるそうだ。より精密な検査や手術といった、さらに高次の医療につなげるべきケースでは、連携病院である西宮渡辺病院のオーブンシステム（開放型病床）を活用。政田院長が出向き、先方の医師と協力して手術を行うことが可能だ。

「MRI検査が必要な場合には、連携先とオンラインシステムでつながっていますので、診察室からその場でスマートに予約を取ることができます。手術に際しても、普段から診察している医師が立ち会うことでの患者さんも安心して臨

めるのではないか」と、検査・診断から治療、手術、リハビリテーションまで一貫して手がけ、近隣住人はもちろん、西宮市外からも幅広い世代の患者が訪れる同院。少しでも気になることがありますれば、コンビニエンスストアが並ぶよな感覚で、気兼ねなく来てほしいと政田院長は語る。

「痛いと思ったら我慢せず、整形外科を受診してください。特にご年配の方の多くは、膝や腰の痛みを抱えておられると思います。ご家族のため、お孫さんのためにも、しっかりと治療し、いつまでもお元気でいてください」

総勢で18人のスタッフがいる同院。特徴の一つとして、非常勤を含む5人の理学療法士が在籍し、リハビリテーションの充実を図っている点が挙げられる。全員が豊富な経験を有し、関節疾患から腰・脊椎の疾患、外傷性疾患まで、さまざまな症状に対応した施術を展開している。また、決して一律ではなく、一人ひとりの患者に対するサポートがしっかりと実現できているのも特徴。看護師や受付スタッフとリハビリテーションスタッフが連携し、全員が患者の状態や性格などを把握しながら対応する。患者との信頼関係を重視している政田院長の思いが、院内全体にしっかりと浸透しているようだ。



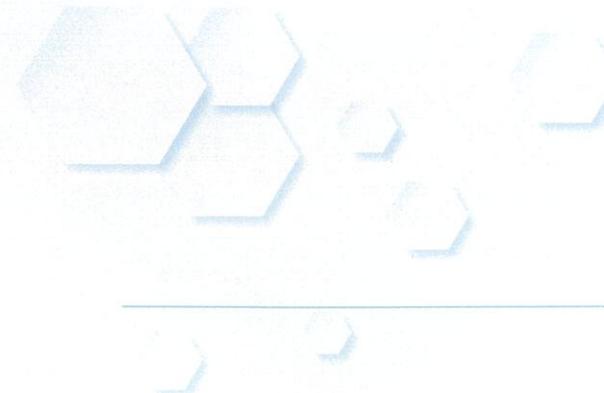
Tel 0798-69-3330
Add 西宮市西福町5-16
野村ビル201
Parking 無
Close 日／祝

Map P000 X-0

Link P000, 000

DATA

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	—	—
16:00~19:00	●	●	●	—	●	—	—	—

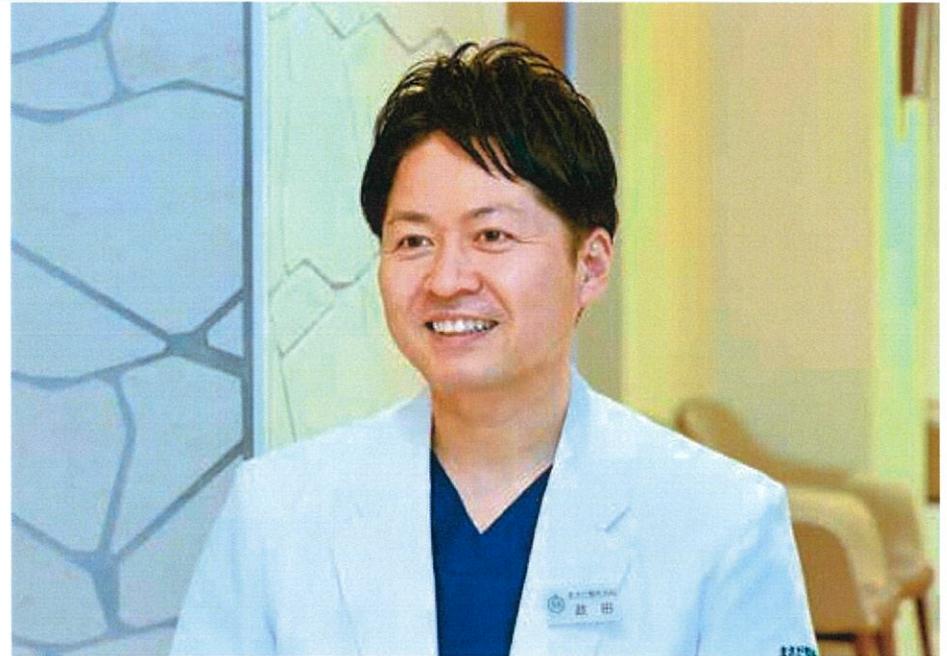


医療法人社団 まさだ整形外科

整形外科／リハビリテーション科

政田 俊明 院長

Masada Toshiaki



「骨のかかりつけ医」として 骨折や骨粗しょう症の予防に注力

1998年大学卒業後、大阪市立大学整形外科学入局。市立吹田市民病院などで研鑽し、2009年より西宮渡辺病院 西宮人工関節センターに勤務。膝・股関節を専門に多くの人工関節置換術に携わる。外科的治療だけでなく、リハビリテーションや骨粗しょう症予防・治療などを提供する「骨のかかりつけ医」をめざし2017年開業。

JR西宮駅北側ロータリーの向かいのビルに平成29年に開業した「まさだ整形外科」。政田俊明院長を中心、受付のスタッフや看護師、理学療法士が一体となって、ホスピタリティーある診療に努めている。

政田院長は、勤務医時代に数多くの人工関節置換術に携わってきました。現在は一般外傷から四肢の疾患、肩凝りや頸部痛、腰痛、巻き爪まで、整形外科領域全般に幅広く対応。中でも、超高齢社会を背景とした高齢者の骨折や骨粗しょう症の予防に力を注ぐ。

「介護や支援が必要な高齢者の約4分の1に、何らかの整形外科疾患があるとされています。中でも圧倒的に多い骨折と向き合い、要介護の期間を減らしていくことを整形外科医の使命と考えます」

もともと「骨のかかりつけ医」をめざして開業した政田院長。骨密度検査にはDEXA法に対応したエックス線撮影装置を採用するほか、治療のアプローチを増やすために、広いスペースをリハビリテーション室に割いている。診療では丁寧な説明を心がけ、十分なコミュニケーションによって患者との信頼関係を築くことを大切に

ホテルのロビーを思わせる、おしゃれなデザインの院内。広々としており、患者さんが快適に過ごせる環境が整えられています。受付を彩るフラワーアレンジメントは、政田先生の母親の手によるものだそう。季節やイベントに合わせて変わることですが、こうした部分にも、患者さんを気持ち良く迎えようという姿勢がうかがえます。

